



桶村久美子(おけむら くみこ)

カラーアナリスト

豊中市在住。朝日放送アナウンサーからフリー。現在は、米国カラーミーアシーズン社の認定カラーアナリストなどとして活躍中。また、ABCラジオ「メモリーズオブユー」も担当。著書に「色の法則」(河出書房新社)ほか。

ターニングポイントとなったまち

桶村久美子

大阪市から豊中へ引っ越して18年になります。都心に近くて緑が豊かなこのまちは快適で暮らしやすく、天気のいい休日には、私が住んでいるマンションから歩いて7分ぐらいの服部緑地をよく散歩しています。乗馬センターや円形花壇、日本民家集落博物館など、いろんなコースをつくって散策を楽しんでいるのです。

長く放送の世界で仕事をしていましたが、豊中に転入して間もない平成4年(1992)、色彩への関心が芽生え、アメリカのカラーアナリストの資格を取得して活動をスタート。以後、化粧品やヘアカラー、新しい繊維製品などの商品開発にかかわらせてもらい、住宅やマンションのカラーコーディネーターといった仕事に参画させていただく機会にも恵まれました。

初めて老人ホームのカラーコーディネーターを担当したのが、豊中の特別養護老人ホーム「淳風とよなか」でした。当初、無難な色使いをしないとイケないのでは、と心配していましたが、「常



識にとらわれないで、お年寄りが元気になる色を使ってください」との依頼者の言葉に勇気もらい、これまでになかった色使いに挑戦してみました。

プライベートな個室は落ち着いた着きのあるベージュ系でまとめましたが、廊下や床、食堂、風呂、トイレ、訓練室といった共用スペースには明るいピンクを、個室の扉はショッキングピンクで統一するという思い切ったカラー提案を試みたのです。入居が始まって半年後、高齢者が元気になってきたと喜びの声が届きました。ちなみに、ピンクには脳を活性化させ、女性ホルモンの分泌をうながす働きがあることが分かっています。

この仕事が大きなきっかけとなり、カラーアナリストからカラーコーディネーターへの道が開けました。その後もデイケアセンターや老人ホームのカラーコーディネーターを多く手がけるようになるなど、私にとって、豊中への転居は人生の大きなターニングポイントとなったのです。